



「七夕」で日本文化を味わいました



文責 ブラッセル日本人学校補習校
校長 佐藤 博

ブラッセル補習授業校というのは、現地の学校（主にフランス語とオランダ語で学習する学校があります）やインターナショナルスクール（こちらはすべて英語で学習する学校です）に通っている子どもたちが、毎週土曜日のみ通う学校です。1年間に40回しか授業がなく、その休みはできるだけ現地校に合わせるようにしています。そうしないと、休みに入ると子どもたちはどこか他の国にバカンスで出かけてしまい、補習校に来なくなってしまいますからです。現地では7月から夏休みに入ってしまう学校も多く、それに合わせて7月1日（土）の授業を最後に、補習校も長い長い夏休みに突入しました。もしかしてこの通信を読んでいる皆さんは、まだ1学期の途中とは思いますが、こちらではすでに夏休みに入っています。羨ましいでしょう？ただ残念なことに、どんなに長い休みがあっても文科省との決まりで校長先生は日本に帰ることができません。単身でベルギーにいと、寂しくてふと家族や友達に会いたくなる時もあります。でもぐっと我慢しなくちゃいけません。休みが多くても、それがちょっと辛いところです。

さて、夏休み前の最終日である7月1日には、七夕を作りました。前号にも書きましたが、ここ補習校の目的の一つに「日本の学校文化を体験する」というのがあります。七夕もその一つです。ただ日本とは違って、手ごろな「笹」がなかなか手に入りません。学校の近くに住んでいて、日本文化をこよなく愛し、日本庭園をつくって庭に笹を植えているベルギーの方をお願いし、何本か分けてもらいました。全日制の方は短冊だけでなく、折り紙などできれいに飾り付けまで作っていたのですが、補習校の方は週に1回の授業のため、そのような時間を取ることもできません。短冊を全てこちらで準備して、子どもたちは7月1日に願い事を書いて飾るくらいしかできませんでした。でもなかなかこちらでは体験できないことがよほど嬉しかったのか、みんなニコニコしながら短冊をつけていましたよ。どんな願い事を書いたのかな…と試みてみると、多かったのが「日本に行っておじいちゃんやおばあちゃんに会えますように」という願いごとでした。日本から約13時間、遠く離れてはいても「会いたい」という気持ちは一緒なんだろうね。昨年まではまだコロナの影響もあって、ちょっとでも熱があれば飛行機に乗れなかった人もいたそうですが、今年はようやく日本も制限がなくなり、こちらから日本に出かけるという人もたくさんいるようです。短冊に書いていた願い事が、久しぶりに叶うという人も多いでしょう。今頃はすでに日本に帰っておじいちゃん、おばあちゃんと楽しくお話をしている頃かもしれません。



三味線コンサートが学校でありました



この間のシュミット選手もそうですが、ブラッセル日本人学校はベルギーにある唯一の日本の学校ということもあり、こちらにいと佐世保ではなかなか会えない人に会えたり、日本的な体験ができたりと、日本にいた時よりも日本を強く感じる人が多いように思います。

今回は「三味線コンサート」、和楽創作グループ「etc.えとせとら」代表の山本英利子さんがわざわざ学校まで来てくださって、三味線コンサートを開いてくださいました。子どもたちが下校した後の夕方6時30分に学校の玄関ホールを使っのコンサートです。ここの玄関ホールは3階までの吹き抜けになっているので音もよく響き、全日制の学校では合唱コンクールにも使用したところだ。見事な三味線の音と山本さんの美しく響く歌声で、1時間のコンサートがあつという間に過ぎてしまいました。三味線ってテレビでは見ることがあつても、なかなか生で聞くことはなく、それがベルギーでできるとは感激でした。演奏体験までさせていただき、特に地元ベルギーの方はめったに聞くことのない三味線の響きに感動していたようです。また山本さんには次の日の全日の音楽の授業にも入っていただき、実際に子どもたちに指導をしてもらいました。山本英利子様、本当にありがとうございました。

